

本がいっぱい!



Teen's 2014



『リョウ&ナオ』《Y Fカ》 川端裕人／著 光村図書出版

6年生の冬、仲よしのいとこナオが亡くなった。そしてリョウは中学生になり、ナオミと出会う。ナオミはナオとそっくり。名前まで似ていて、ちょっと反則! って思うくらい。二人は地球のリーダーを育成する団体「ジーコーズ」に選ばれ、世界各国で行われる研修に参加することに…。



『名前をうばわれた少女 わたしはエファじゃない』《Fウ》 ジョアン・M. ウルフ／作 ^{ひなた}日当陽子／訳 朝倉めぐみ／絵 フレーベル館



第二次世界大戦中、11歳のミラダは、ナチに家族のもとから引き離され、センターに連れてこられる。そこにいたのは、ミラダと同じ金髪で明るい目をした少女たち。「正しいドイツ少女になるために」名前さえもうばわれて…。過酷な運命の中でも懸命に生きるミラダを待ち受けるものとは？

TOKOROZAWA PUBLIC LIBRARY
所沢市立所沢図書館

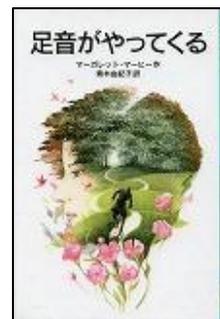
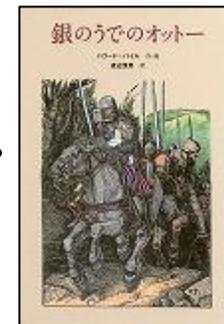


『快晴フライング』《Y Fフ》 古内一絵／著 ポプラ社

水泳部を立ち上げた幼馴染のタケルが事故で亡くなった。多くの部員が水泳部を去り、水泳部は廃部の危機に陥った。なんとしても都大会に出場したい龍一は、水泳部の存続のため、残った部員たちと弓が丘杯の出場を目指す。そんなとき、すばらしい泳ぎをみせる謎の少女が現れて…。

『銀のうでのオットー』《Y Fパ》 ハワード＝パイル／作・画 渡辺茂男／訳 童話館出版

人々が戦いに明け暮れた暗黒の時代、“竜の館”のひとり息子オットーは、父の敵につかまり人質となる。幼い彼に与えられた運命は、あまりにも苛酷だった。やがて、助け出された彼は、愛と知恵をもって、争うことのむなしさを人々に伝えていった。



『足音がやってくる』《Y Fマ》 マーガレット・マーヒー／作 青木由紀子／訳 岩波書店

「バーナビーが死んだ！」バーニーの前に幽霊が現れて、その言葉を告げてから、バーニーは近づいてくる足音におびえるようになる。その正体は、長い間、行方不明のスカラー家の魔法使いコール大叔父らしい。彼の目的は何？

『風色デイズ』《Y Fカ》 あさのあつこ／他著 角川春樹事務所

理佳子はバレエの全国コンクールに出場する。演目は「眠れる森の美女」。襲ってくる緊張のなか、舞台袖からまぶしい舞台へと足を踏み出す…!

何かに夢中になるって素敵だなあと感じる全7編。熱い気持ち呼び起こしてくれます。



『おれのおばさん』 《Y Fサ》

佐川光晴／著 集英社

父の逮捕によって名門進学校の退学を余儀なくされ、実の伯母が営む児童養護施設に預けられた陽介。施設で起こる様々な問題をパワフルに解決するおばさんの姿は爽快だ。型破りなおばさんの生き様に全力で生きることの大切さを感じる一冊。



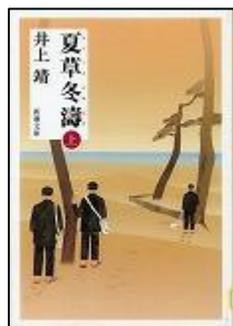
『ホタルの光は、なぜだらけ』 《48》

大場裕一／著 くもん出版

遠いところへ行かなくても、日本にもたくさんの発光生物が生息している。ホタルだけでなく、ミミズやキノコにも光るものが存在するんだ！でも、その仕組みや進化の過程など、まだわかっていないことがたくさんある。「なぜ？」からはじまる疑問を大切にしてきた著者が、科学の面白さを伝える本です。

『夏草冬漣（上・下）』 《Y F I》

井上 靖／著 新潮社



伊豆・湯ヶ島出身の洪作は、優秀な成績で沼津の中学校へ進学するが、生来ののんびりした性格が災いして、学年が進むごとに成績は下がる一方。やがて学校で不良扱いされている文学好きの上級生たちと付き合いようになった洪作は、ついに寺に預けられることに…。『しろばんば』に続く文豪・井上靖の自伝的小説。

『おっちゃん、なんで外で寝なあかんの？』 《36》

生田武志／著 下平けいすけ／絵 あかね書房

「ホームレス」ってどんな人？大阪市の児童館では、家のない人の手助けをする「こども夜回り」を行っています。どうして家がないのか、毎日どのように暮らしているのか。「ホームレス」の人たちのことを一緒に考えてみよう。



『ジャングル』 《65》 松岡達英／作 岩崎書店

中央アメリカの小さな国、コスタリカ。海辺から高い山まで、濃い緑のジャングルにおおわれている。ジャングルはめずらしい生物の宝庫。毒を持つヤドクガエル、巨大なチョウ。他では見ることのできない動物たちに、君も会いに行こう！

『おもいだしてくださいあのこどもたちを』 《23》

チャナ・バイヤーズ・アベルス／構成・文
おびただす／訳 汐文社

しあわせだったこどもたちの暮らしが、戦争によって変わってしまった…。

この本はわかりやすい言葉と当時の記録写真によって、ナチスの迫害にあったこどもたちの生と死を伝える記録絵本です。



『一握の砂 悲しき玩具』 《Y 9 1. 1》

石川啄木／作 岩波書店

26年の短い生涯を駆け抜けた歌人、石川啄木。家族や故郷、忘れがたき人々への思い。命のはかなさや、人のみじめさ。31文字に込められた啄木のこころに触れてみませんか？

東海の小島の磯の白砂に／
われ泣きぬれて／蟹とたはむる

